

静的圧入締固め工法（CPG工法）における隆起量予測法に関する検討

池内章雄*・大里睦男*・平 義章**

*（財）沿岸技術研究センター 調査役

**（財）沿岸技術研究センター 調査部 主任研究員

概要

静的圧入締固め工法は既設構造物の液状化対策工法として採用されているが、施工に伴い生じる地盤隆起を適切に推定する必要がある。港湾空港技術研究所により提唱された新たな予測法により、これまで困難とされていた地盤隆起量の推定が施工前に可能となった。本研究では近年実施された施工事例を対象として新予測法を適用し、地盤隆起量の予測精度向上について検討した。

キーワード：液状化対策，静的圧入締固め工法（CPG工法），地盤隆起，予測法

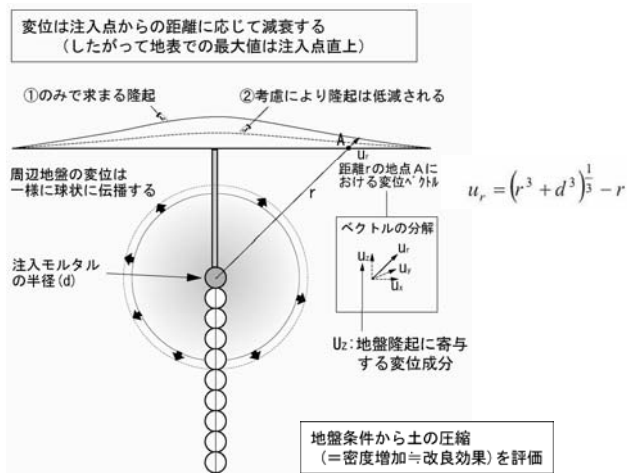
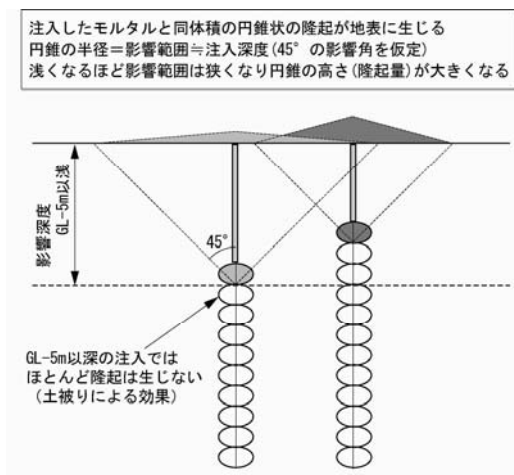


図-1 従来の地盤隆起の考え方（上）とκ法を応用した地盤隆起量予測法（下）の比較

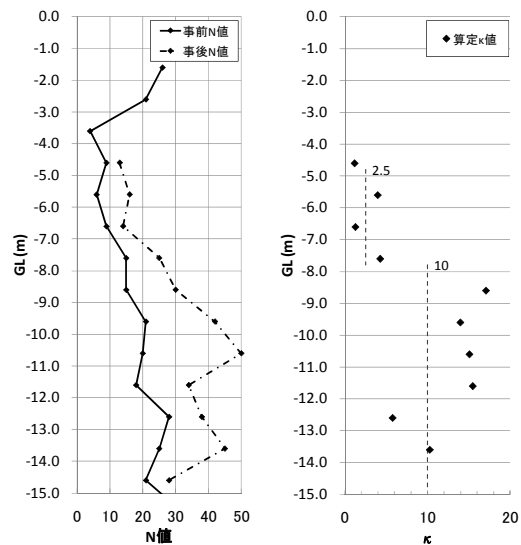


図-2 平成21年度新潟空港地盤改良工事における事前事後N値と算定されたκの深度分布

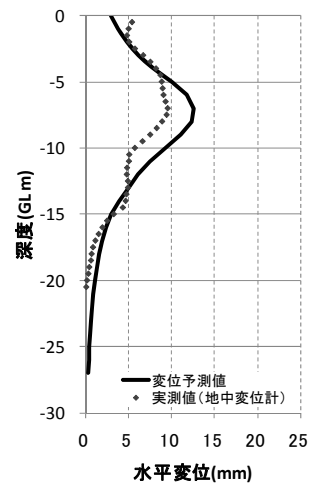


図-3 予測法により求めた地盤水平変位と地中変位計で計測された水平変位との比較